

目次

八雲町の概要	• 1
プロローグ「八雲を歩く」	• 3
索引 [50音順]	• 5
トレンドマップ八雲図鑑	• 15
自然	17
公園・温泉／公園・温泉マップ	19
歴史・伝統文化／年表	21
祭・イベント・交流	25
移住定住促進	29
農林水産業	31
商工業	35
生活環境	37
保健・医療・福祉	39
教育・文化	41
議会・行政／八雲町マップ	43
エピローグ「八雲を歩く」	• 45



八雲町の概要

八雲町は北海道の南部、渡島半島のほぼ中央部に位置しています。東は太平洋、西は日本海に面しており、日本の市町村としては唯一、2つの海に面する町です。北は長万部町、今金町、せたな町と、南は森町、厚沢部町、乙部町と接しています。面積は約956km²で渡島檜山管内最大の広さを有しています。渡島山地を挟んで東に遊楽部川、落部川、野田追川が、西に相沼内川、見市川が流れており、恵まれた自然環境の中で農業、漁業が盛んに行われています。

町の人口は18,137人、世帯数8,624戸（住民基本台帳、平成25年12月）となっています。

沿革

八雲町は、平成17年に渡島管内の旧八雲町と檜山管内の旧熊石町が合併し、太平洋と日本海2つの海に面する日本で唯一の町となりました。合併に伴い、2つの海をもつことにちなんで新たに「二海（ふたみ）郡」という郡名が付けられました。

旧八雲町は、旧尾張藩主徳川慶勝公が明治維新で禄を失った旧臣授産のために遊楽部の官有地払い下げを願い出て、1878（明治11）年に家持15戸72人と単身者10人を移住させたことから本格的な開拓が始まりました。八雲という地名は、慶勝公が豊かで平和な理想郷建設を願って、

須佐之男命（すさのおのみこと）が結婚のために新築する家を喜び祝うために歌ったとされる古事記所載の和歌「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣つくる その八重垣を」にちなんで名付けられました。

旧熊石町は歴史が古く、1691（元禄4）年に和人地と蝦夷地の境界として番所が設置されています。松前藩政時代からニシンの千石場所として漁業で繁栄し、日本海を回航する北前船の往来がもたらす文物により、独自の生活文化を形成してきました。

気候

太平洋側と日本海側では異なり、年平均気温は太平洋側が7.9℃、暖流の影響を受ける日本海側が9.3℃となっています。降水量は日本海側が冬に多く夏に少ないのに対し、太平洋側は夏に多く冬に少なくなる傾向が見られます。また太平洋側は夏期に霧が多く発生する傾向にあります。

交通

国道は太平洋側に函館と札幌を結ぶ国道5号、日本海側に国道229号、太平洋と日本海を最短距離で結ぶ国道277号が通っています。また、高速道路は町内に道央自動車道の八雲インターチェンジと落部インターチェンジがあり、交通の要衝となっています。

鉄道はJR函館本線が通っており、青函トンネルによって本州と結ばれ、北海道新幹線の駅も建設が予定されています。また、函館空港は約80kmの距離にあります。

